慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Tableau conomique（経済表）の解説（下）
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.11 (1918. 11) ,p.1526(40)- 1540(54)
JaLC DOI	10.14991/001.19181101-0040
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19181101-0040

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Tableau Économique(經濟表)の解説（下）

三邊金藏

五

ケネーが其 zigzag を通して主張せんと試みたる論旨は、略ぼ以上叙説せる所に盡きたりと謂ひ得可し。從つて久しく筆を此處に淹留せしめて其詳細に論じ入らんは、或は其必要なかる可しと雖も然かもケネーが同じ表の下段に追記して、「再生産總額　所得六百リーヴル　外に年々の費用六百リーヴル、及土地の補償する農業勞働者」を曩きに譯出せる「經濟表」に於て單に勞働者と記して農業の二字を其上に加へざりしは蓋し粗漏の大なるものなり、乃ち今此好機に於て如斯之を訂正す）の原始的元資の利子三百リーヴル。故に再生産額は千五百リーヴルにして、内に計算の基礎たる六百リーヴルの所得と其年々の再生産に必要なる元資とを含む」と謂へる其言に就ては、精細に「經濟表」を讀まむとする人々に忠實ならんが爲めに、多少の説明を加へざるを得ざる可し。蓋し此附記たるや外部よりして之を見れば、誠に簡單至極なる一個の計算たるに止るかの如き觀を有すれども、一度内部に立ち入りて其計算の由來する基礎を確めんとするときは、「經濟表の説明」全部を搜索するも未だ必しも十分ならずして、終には其域外にまで亘りて踏査し來るの必要を見る其上に、此處に之を説くは、軈て Tableau Économique と、後に述べんとする Analyse du Tableau Économique との間に、脈絡自ら相通ずるものあるを明かにする所以たればなり。

然り然らば、ケネーが年々の費用と謂ひ、土地の補償する農業勞働者の原始的元資の利子と謂ふは果して何を指稱するの語にして、其計算の基礎は果して何處に存するや。先づ再び表に歸りて左側縱列の數字を加算するときは、既に述べたると同じ理由に依り、其總和は六百なりと稱して不可なきを見る次第なるが、此總和こそは軈てケネーが年々の費用六百リーヴルと謂ふ其費用たらん也。蓋し此總和は、一方より之を見れば、生産階級の者が自家所産の生産物（ケネーが此縱列の頭に「生産物」―曩きに單に「生産」と記せるは過誤なり、今訂正す―なる語を冠せるは此

を語らん爲めなり）を地主階級及不生產階級の者に賣却して次々に收納せる金額の總和に外ならざれども、然かも彼は、吾人の既に述べたるが如く、斯くて得たる此金額を又た次々に自家の生產に投入して、總額同じく六百リーヴルの純所得を生み之を地主階級に送るものなるが故に、此方面よりして之を見れば此は其費用なりと稱して毫も不可あることなければなり。

次に、ケネーが農業勞働者の原始的元資の利子と謂ふ其原始的元資とは、現今に所謂設備資本又は固定資本の義に當り、其利子とは是が修繕並に維持に要する費用の義に相當するが故に、此は會計學に所謂固定資產の修繕並に維持費の謂ひに外ならずと解するを以て、最も其肯綮に當れるものなりとして、偖彼が此を三百リーヴルなりと計上したる其計算の基礎に就て考ふるに、其は彼が其後年の著たる Analyse du Tableau Économique に於て初めて詳述したる計算の上に立つものに外ならずと謂ふ可きなり。蓋しケネーは彼處に於て彼の所謂原始的元資は年々の元資の約五倍に當り、而して其所謂利子は少くとも其一割を下る可からず、と主張するものなるが今是に基きて此場合の計算を行へば $600\times5\times\frac{1}{10}=300$ となりて正さに彼の言ふ所の數を得ればなり。

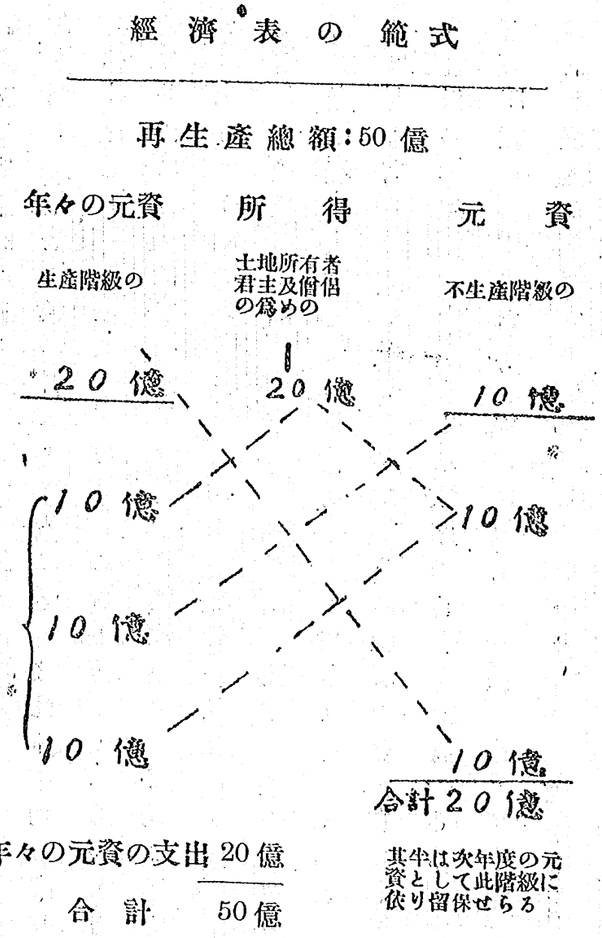
然り而して、最後に彼の言ふところに從へば、此等一切の費用は純所得と共に年々再び生產せられて恒久に反覆せられざる可からざるものなるが、是は此處に假定せる場合に於ては既に承認せられたる事實なりと謂ふ可きなり。何となれば年々の元資が十割の純生產又は所得を生むと謂ふは、之を詳言すれば一切の費用を賠償して猶ほ其十割に相當する純餘剩を生むの謂ひに外ならざるが故に、元資の再生產は既に眞立言中に含蓄せらると解して毫も不可あるを見ざればなり。

然れども斯くの如く生まるゝところの純所得を標準として逆に之を生むに要する費用の再生產を算定するは、順序の宜しきを得たるものにあらずして、爲めに論旨の明瞭を害すと言ふ者或は之れ有らん哉。果して然らば、吾人はケネーと共に、論者の滿足を買はんが爲めに、直ちに Analyse du Tableau Économique に趣かざる可からずして、實に又た今其機の熟せるを見る者なりと雖も、其詳細は次に之を説くが故に、此處には唯ケネーが彼處に於て、再生產總額は年々の元資の二十五割に當ると明言し居る事實を指摘して以て、以上の説明を結ぶに止むること如斯矣。

六

却説以上は專ら「經濟表」第二版に就きて其解説を試みたるものなるが、ゲネーの後年の著たるAnalyse中に見出だゝる「經濟表の範式」(Formule du Tableau Économique)は、其形此と等しからずして實に上圖に示すが如きものたるを見るなり。

而して此後者こそ世に最も知られたるものゝ如くにして、ゲネーの説を紹介する

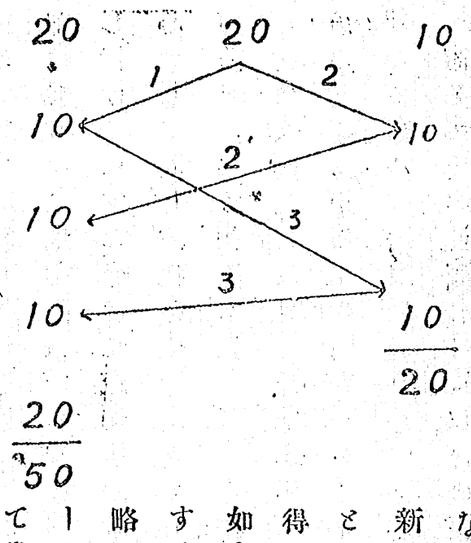


者の喜んで引用するところなれば、今筆の序でに此處に之を説明するは、蓋し時處の宜しきを得たるものたらん也。

先づ兩者相違の由來する所を考ふるに、其理由の一部はステファン・バウアー氏の説けるが如く、曩きに各階級の代表的一員に就て見たるところを變じて其各の全體に亘らしめ、且つ曩きに漸次的に行はるとして個々に示したる分配過程を、二三の過程に縮約して示したる其相違に起因するや勿論なりと雖も、然かも他の一部は曩きには地主階級の掌裡に歸する所得の規則正しき回歸を中心として考察し行けるに反し、今は生産階級の掌裡に歸する年々の元資の規則正しき回歸を中心として、同じ主張を立せんと試みたる其相違に基くものにして、此後の相違こそ寧ろ重大なる相違なれと謂ふを得可し

次に又此表に於ける分配過程に就きては、バウアー氏に簡潔なる説明あれども、氏の其際に用ゐたる圖表はゲネーの此範式と相同じからずして、却つて初めに掲げたる舊の經濟表に近き左の如きものたるを見るなり。

而して氏の此圖表は氏自身の見地より之を觀れば、自ら然らざるを得ざるもの



なる可くして、啻に輕便なるのみならず、ケネーの新舊兩圖表が相互に沒交渉ならざるを示すものとして之を觀れば、又た一個の效用を有すと稱し得可しと雖も、併し氏の此圖表には後に述ぶるが如き難點の存するを見る其上に、假令難點なしとするも、其が何故に能くケネー自身の彼の範式と略ぼ同一事を語り、從つて氏の圖表に依りてケネーの説を窺知し得るやを知らんが爲めには、却つて豫め先づケネー自身の範式を正解するを必要とするものあるが故に、吾人は不幸にして氏の説明を此處に援用して自ら安んずるを得ざる者なり。

然れども他方に於て吾人自ら之が説明の任に當らんは、此場合に於ては謂はゞ一個の僭越を敢てするものに外ならざる可し。蓋しケネーが此範式に附せる説明は眞に其詳細を悉せるものにして、局外より一語だも之に附加するを用ひざればなり。因つて以下に於ては、ケネーの語を以てケネーの範式を説き、然る後に必要なる註解を其上に施す可し。乃ち先つ彼をして此處に必要なる限りを簡單に語らしめよ。

「經濟表は三つの階級と彼等の年々の資産とを包含し、彼等（相互）の取引を次の形にて畫くものとす。

生産階級　此階級の年々の元資は總額二十億（年々の元資とは毎年土地耕作の爲めに投ぜらるゝ費用の義にして此額の約五倍に當る設備資本とは判然區別するを要す）にして五十億の生産をなす。内二十億は純生産又は所得なりとす。

地主階級　此階級の所得は二十億にして彼は其内の十億を生産階級よりの購買に、他の十億を不生産階級よりの購買に費す。

不生産階級　此階級の元資は總額十億にして生産階級より原料を購入する爲めに（不生産階級に依り）費さる。

故に生産階級は生産物十億を地主階級に賣り、同じく十億を其工業の原料とし

て、彼より之を購入する、不生産階級に賣却す、　此額　二十億也

地主階級が不生産階級よりの購入に費したる十億は、此階級に依り其階級を組織する人々の食料として、生産階級より生産物を購入する爲めに用ゐらる、　此額　十億也

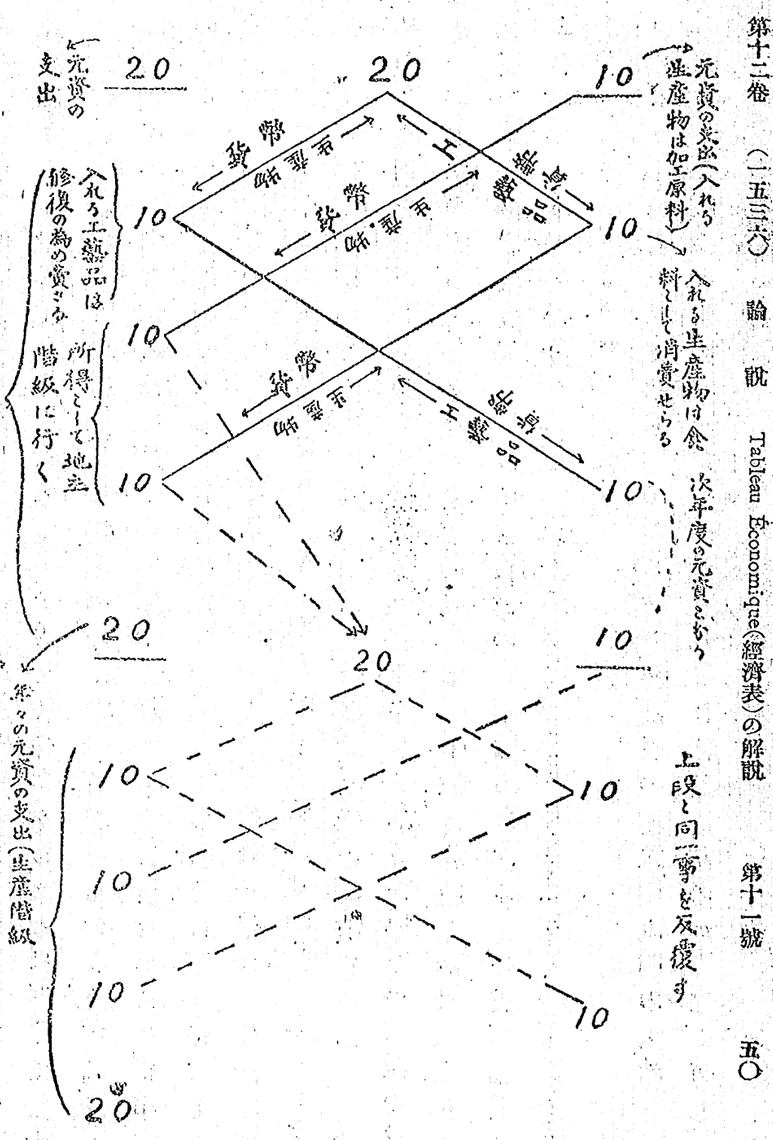
（從つて）地主階級及不生産階級の生産階級より購入する總額は　三十億也

賣却せる三十億の生産物に代えて生産階級の受領せる此三十億の内其二十億は當該年度の所得として彼之を地主階級に負ひ、爾餘の十億は彼之を不生産階級より工藝品を購入する爲めに費す。此後の階級は此金額を、初め彼が其工藝品中に使用する原料を購入する爲めに、生産階級に支拂ひたる其元資を回復する目的にて保有す。」

「原料と加工の爲めの勞働とは不生産階級の販賣額を二十億に達せしむ。其内の十億は此階級を組織する人々の爲めに費され……他の十億は、次年度に於て新たに生産階級より不生産階級の製作する工藝品の原料を購入する爲めに用ゐらるゝ、彼の元資を回復する目的にて保有せらる。」

「再生産總額五十億中より地主階級及不生産階級は其消費の爲めに三十億を購入したり。故に生産階級の手許には猶ほ二十億の生産物殘存す。加之此階級は不生産階級より十億の工藝品を購入せるを以て、彼の年々の基本は斯くて三十億に上り、其は此階級の各種の勞働（是は農業の年々の元資たるものより支給せらる）及び設備資産の日常各種の修復（是は後に述ぶる利子より支辨せらる）に從事する凡百の人々に依りて消費せらる。故に生産階級の年々の費用は三十億にして、其二十億は自己の消費の爲めに保有する生産物より成り、他の十億は不生産階級より購入したる工藝品より成る。此三十億は世人が生産階級の回收（Les Reprises）と呼ぶ所のものを形成するものにして、其内の二十億は、此階級が其消費に因りて消滅せしめたる費用を補償し維持する爲め、年々再生産する其五十億の再生産の爲めの直接の勞働に費さるゝ年々の元資を形成し、他の十億は此同じ階級に依り其設備的元資の利子（譯者註、此場合に於ては百億の一割なるはケネーの言の如し）として賣却代金中より豫め控除せらる。」（以上 Oncken; Ouvres Économiques et Philosophiques de F. Quesnay P. 310—313 より拔萃飜譯す）

以上はケネー自身をして語らしめたる彼の「經濟表の範式」の説明の大體なりとして、今彼の此言に基き前掲の範式を補註するときは、其は左の如くなる可し。



然り而して今此表をとりて前に掲げたる「經濟表の範式」と比較するときは、兩者の間に相違ありて彼此の一致を見んが爲めには、「範式」に於て左側縱列の最頂上の數字より右側縱列の下段の數字に斜行する點線を、此表の如く左側縱列第二行目の數字より斜行するものに改正するか、若くは其反對に此表を彼の範式の如く改正するかの二方法に就きて、其一を撰擇し來るを必要とするものなるが、吾人は此表を以て正しとなし從つて改む可きは彼の範式なりとなす者なり。蓋し此表はケネーの說明を忠實に追ひ行きて作れるものなれば、彼の說明に誤りなき限り、此表は改めらる可き性質のものにあらずと謂ひ得る其上に、範式の如く點線を引くはケネーの說明の何處に照合して之を勘考するも、終に其理由を得る能はずして結局無意義たるを發見すればなり。

次に又た此表の語るところを以上の如く領會して前に引用せるバウアー氏の圖表を見るときは、バウアー氏は此表に於て右側縱列最頂上の數字より左側縱列第三行目の數字に向つて斜行する一線を省略し、其代りに右側縱列下段の數字より左側縱列の終より二行目に走る一線を引き、其末端に十億なる數字を置きたる

ものにして、氏の斯くの如くなせる意は想ふに縱令然かするもケネーの推理は爲めに害せらるゝことなき其上に、吾人の既に述べたる一特長、即ちケネーの新舊兩經濟表間に存する交渉を一層明瞭ならしむるの利益ありとなせるが爲なるべしと雖も、然かも氏の圖表に於ては不生産階級の元資は、其が初めよりして常に加工原料たる生産物より成ると解するにあらざれば、終に一度も流通變化することなくして了るが故に其有無存否は全く事に關係するところなしと謂はざる可からず、然かも此を生産物より成ると解するは、ケネーの前提とする所を破壞するものにして説明するものにあらず、といふ一個の進退兩難（デイレンマ）に逢着するの事實を發見すべし。即ち自ら氏の圖表の當らざる所以を語るものにして、實に又た吾人が曩きにパ氏の圖表には一個の難點の存するものあるを見ると謂ひて、其採用を遽かにせざりし其理由を形成するものなりとす。

七

却説以上叙述せる所に依り、吾人は「經濟表の範式」に就き、其説く可きは之を説き、引く可きは之を引き、補ふ可きは之を補ひて、私かに自ら期せる所の目的を達し得たるが如くなるを以て、今再びケネーの言を引用し來りて此論を結ぶの辭となす可し。

「以上は即ち生産階級が、年々の再生産五十億の全支出中に包含せらるゝ、彼の年々の元資二十億を費すに依りて毎年再生産する五十億の費用の規則正しき分配秩序なりとす。」(Oncken; Ouvres etc. P. 314)

「而して吾人は費用の分配が吾人の前きに詳述せる秩序に從ひて行はるゝ既定の場合に於ては、生産階級の領收は、其元資をも含ましむれば、年々の再生産總額に等しきこと、及び農業國富、人口は恒に同一狀態を保ちて增減することなきと發見す。異れる場合は、吾人の既に述べたるが如く、異れる結果を與ふ可し。」(Oncken; Ouvres etc. P. 316)

「然れば吾人が一國の善政若くは惡政の結果を算定し得るは、費用が賴りて以て生産階級に復歸し若くは賴りて以て此より逸去し、其元資が賴りて以て增殖し若くは賴りて以て減少し、生産物の價格が賴りて以て高く保ち若くは賴りて以て低落する、彼の費用の分配秩序に徵してなりとす」(Oncken; Ouvres etc. P. 320)

「貧農即貧國、
貧國即貧君。」

前號正誤

一二七頁	八行末段	
一三二頁	自終二行	資産階級は地主階級の誤
一三三頁	三行上段	
一二八頁	註の內	Questions は Questions の誤
同	同	intiressantes は intéressantes の誤
同	同	L'ogriculture は L'agriculture の誤
同	同	Cannano は Cannan の誤

流通貨幣の數量と信用（下）

高城仙次郎

第三節　流通貨幣の數量と當座預金との間に於ける因果的關係

前節に於て說述せるが如く、流通貨幣と當座預金との間には――普通の當座預金のみに就きて云ふも、將た又普通當座預金並に小口當座預金に就きて云ふも同じ――密接なる關係の存するものなるが、斯の如く、貨幣と當座預金との間に常に一定の比率を維持するの傾向を有するは、當座預金が流通貨幣の數量に比例して增減するの性質を備ゆるが故なりとす。米國エール大學敎授フィシャー氏が曾て信用が發達するとも、一般物價が貨幣の流通高に比例して騰落するものなることと尙ほ貨幣のみが貨物の賣買に用ひらるゝときに於けると異ならずと推斷して、氏の所謂新貨幣數量說を提唱せるは實に此當座預金對貨幣の數量的並に因果的